

新学習指導要領の考え方を活かして ～見方、考え方をはたらかせるとは～

1 主題設定の理由

4月より、新学習指導要領が全面実施となった。これまでの反省をもとに、より一層の「見方、考え方」への理解を深め、「はたらかせる」レベルを高めることが急務と考え、本部会では、昨年度に引き続き、同様の研究主題で研究を進めることとした。

コロナ禍ではあるが、可能な範囲で研究授業を設定し、新学習指導要領を取り込んだ授業作りを行った。

2 研究経過と内容

今年度お世話になった講師の先生

東京学芸大学附属小金井小学校教諭 三井 寿哉 先生
東京学芸大学附属小金井小学校教諭 小林 靖隆 先生

- 9月 2日 組織決め 研究活動計画・研究主題検討
10月 7日 研究授業① 6年「土地のつくりと変化」
授業者：立川市立新生小学校 野村 知義 主幹教諭
11月 4日 研究授業② 3年「光と音の性質」
授業者：立川市立第八小学校 田部井 淳 主任教諭
12月 2日 研究のまとめ

3 まとめ（○成果 ◇課題）

研究授業① 「土地のつくりと変化」

概要：「地層はどのように作られたのだろうか」という単元全体を貫く問題で授業を進めていた。本時では、それぞれのグループが推論したものを交流し、子どもたち同士で深め合えるよう、「出店方式」で学習を行った。

○単元を通して、内容をタブレットに記録して学習を進めたことで、以前行った実験の動画や、自分の描いた予想図を振り返ってみることができた。また、考えの変容も自覚することができた。

◇「出店方式」でグループが推論したものを交流したが、発表を聞いて反論することはとても高度である。今後もさまざまな教科で取り入れ、交流によって学習が深まるよう指導していく必要がある。

研究授業② 「光と音の性質」

概要：おかしの缶や手作りのギターを提示し、問題作りを行った。どういったものを最初に提示することがよいのか、提案性のある授業だった。

○「音は、ふるえて伝わる」を視覚的に理解するために、ゴムを使ったものを提示したのがよかった。

◇缶の形や素材がばらばらだったのが、初めに行う事象提示としては情報過多になっていた。